

リンパ浮腫のケア ーリンパマッサージと多層圧迫包帯法ー

国立がんセンター東病院緩和ケア病棟

中 辻 香邦子 佐々木 智 美

看護師や医師で“リンパ浮腫”ということばについて知らない人はいない。しかし、リンパ浮腫のケアについての正しい知識を持っている人は、非常に少ないと思われる。

続発性のリンパ浮腫に悩まされているがん患者は非常に多いが、適切なケアを受けている人はわずかであろう。薬物による治療は、ほとんど効果がないといっても過言ではない。そのリンパ浮腫に対するケアの基本は、Complex Decongestive Physiotherapy

(複合的理学療法)である。これは、皮膚のケア、徒手リンパドレナージ(以下リンパマッサージという)、圧迫療法(多層圧迫包帯法、圧迫衣類の装着)運動の4つである。この療法を始める前に、まず、リンパ浮腫かどうか、患者の既往歴や病状から、これらの療法を行って良いかどうかの判断をすることが重要である。皮膚のケアは、どのようなリンパ浮腫に対しても行うケアである。しかし、リンパマッサージ、圧迫療法は、適応と禁忌の判断、方法の選択をし、運動は、患者の状態に合わせてプログラムを検討しなければならない。リンパ浮腫のケアを行なうセラピストには、患者の全身状態とリンパ浮腫の状態によって、どのようにケアを行なうか判断できる能力が要求される。また、リンパマッサージ、多層圧迫包帯法は、専門的な知識と熟練した技術が要求される。現在の日本では、その技術を習得するための教育機関も非常に限られている。

一人の患者に、この一連のケアを行うと約1時間以上必要となる。今回のこの看護技術実演交流会では、上肢のリンパマッサージと多層圧迫包帯法のデモンストレーションを行い、一般的に“マッサージ”と言われているマッサージとの違い、通常の圧迫包帯との違い等について参加者の理解をえたい。